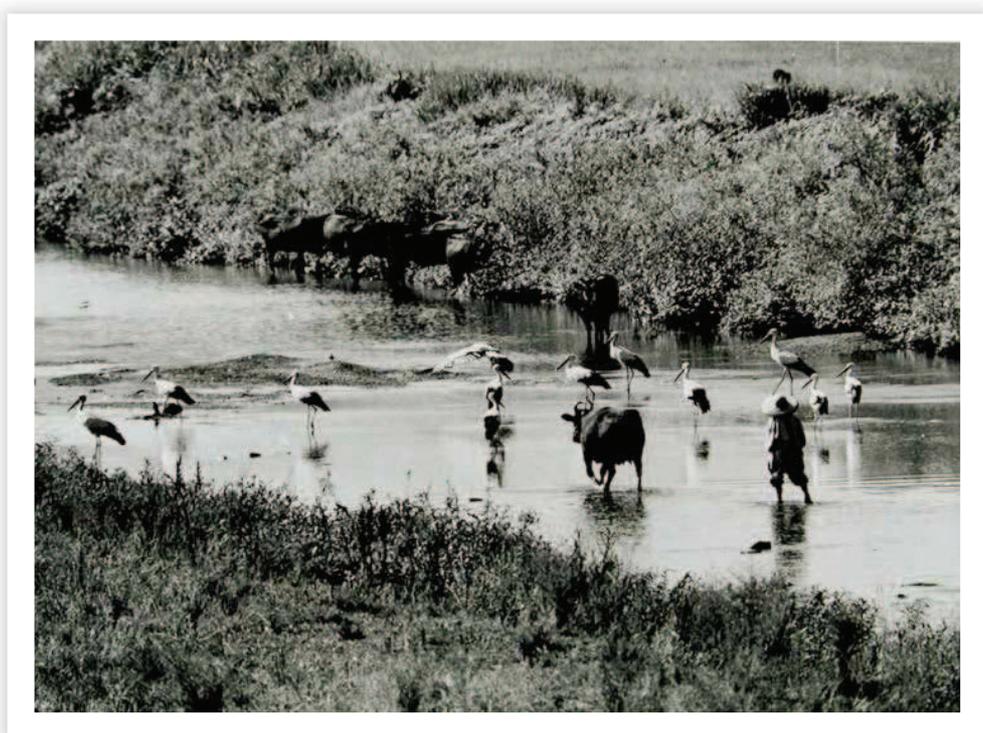


# コウノトリと共に 生きていく



提供:(有)富士光芸社

昭和35年(1960年) 出石川(豊岡市) 農家の女性、但馬牛とコウノトリ

これはかつて日本で絶滅した  
コウノトリの野生復帰に取り組む  
豊岡の「物語」



私たちは、一度は絶滅したコウノトリを飼育下で増やし、かつての生息地である人里に帰していくというプロジェクトに取り組んでいます。

なぜ膨大な時間とコストをかけて絶滅した鳥を復活させるのか。

それは滅びさせまいという多くの人の願いであり、コウノトリも住める豊かな環境は人間にとっても豊かな環境だと信じているからです。

かつて、コウノトリは日本の各地で暮らしていました。しかし、銃による乱獲や、戦後の日本の高度経済成長に伴う開発などによる生息地である湿地や湿田環境の減少、さらに、農薬の大量使用などによるエサとなる生きものの激減により、1971年、日本の空からコウノトリは姿を消しました。豊岡は最後の生息地でした。

豊岡では絶滅する前の1965年、野生のコウノトリを捕まえ、人工飼育を始めました。しかし、繁殖は失敗の連続でした。転機は、1985年に旧ソ連・ハバロフスク地方からコウノトリの幼鳥6羽を譲り受けたことでした。その中からペアができ、1989年、人工飼育の開始から25年目の春、初めてのヒナが誕生しました。

その後、コウノトリを再び空へ帰すための取組みが始まりました。コウノトリの生息地となる水田や河川の自然再生、営巣するための人工巣塔の設置、そして無農薬による米づくりも始まりました。

2005年9月、飼育していた5羽のコウノトリを放鳥。2年後には46年ぶりに日本の野外でコウノトリのヒナが誕生しました。

今では毎年ヒナが巣立ち、コウノトリは日本の空を自由に飛んでいます。

コウノトリは私たちの暮らしの中に戻ってきました。

コウノトリも住める豊かな環境づくりのため、市民と協働した湿地やビオトープの整備、子どもたちへの環境教育など、様々な取組みが広がっています。農薬や化学肥料に頼らず、おいしいお米と多様な生きものを同時に育む「コウノトリ育む農法」は、豊岡の環境と経済を好循環させています。

しかし、コウノトリも人も豊かに暮らせる自然はまだ十分にありません。

私たちの取組みは、これからも続いていきます。



## コウノトリ

体 長：1.1m

体 重：4 - 5kg

翼を広げた大きさ：2 m

生 息 地：日本、ロシア、中国、韓国

主な餌場：水田や川の浅瀬

エ サ：魚、カエル、ヘビ、バッタなど

IUCNレッドリスト：絶滅危惧 I B類

環境省レッドリスト：絶滅危惧 I A類

## コウノトリをめぐる歴史

- 江戸時代 ほぼ全国各地でコウノトリが見られた  
明治時代 狩猟解禁による乱獲  
1908年（明治41年） 狩猟法の改正により、保護鳥に指定  
1955年（昭和30年） 組織的な保護活動のはじまり  
1965年（昭和40年） コウノトリ人工飼育のはじまり  
1971年（昭和46年） 日本の野外のコウノトリ絶滅  
1985年（昭和60年） 旧ソ連・ハバロフスク地方からコウノトリの幼鳥を譲り受ける  
1989年（平成元年） 譲り受けたコウノトリの中からペアができ、人工繁殖に成功  
2005年（平成17年） 放鳥開始  
2007年（平成19年） 野外でコウノトリのヒナ誕生・巣立ち  
2012年（平成24年） 豊岡市の隣町で繁殖  
2013年（平成25年） 野生のコウノトリが韓国へ渡る  
2017年（平成29年） 近畿地方以外で繁殖

そして令和になり、  
コウノトリの繁殖地は、日本全国に広がっています。

# 生息地の保全・再生

多様な主体が関わりながら、  
いのちがあふれる自然を取り戻そうとしています。

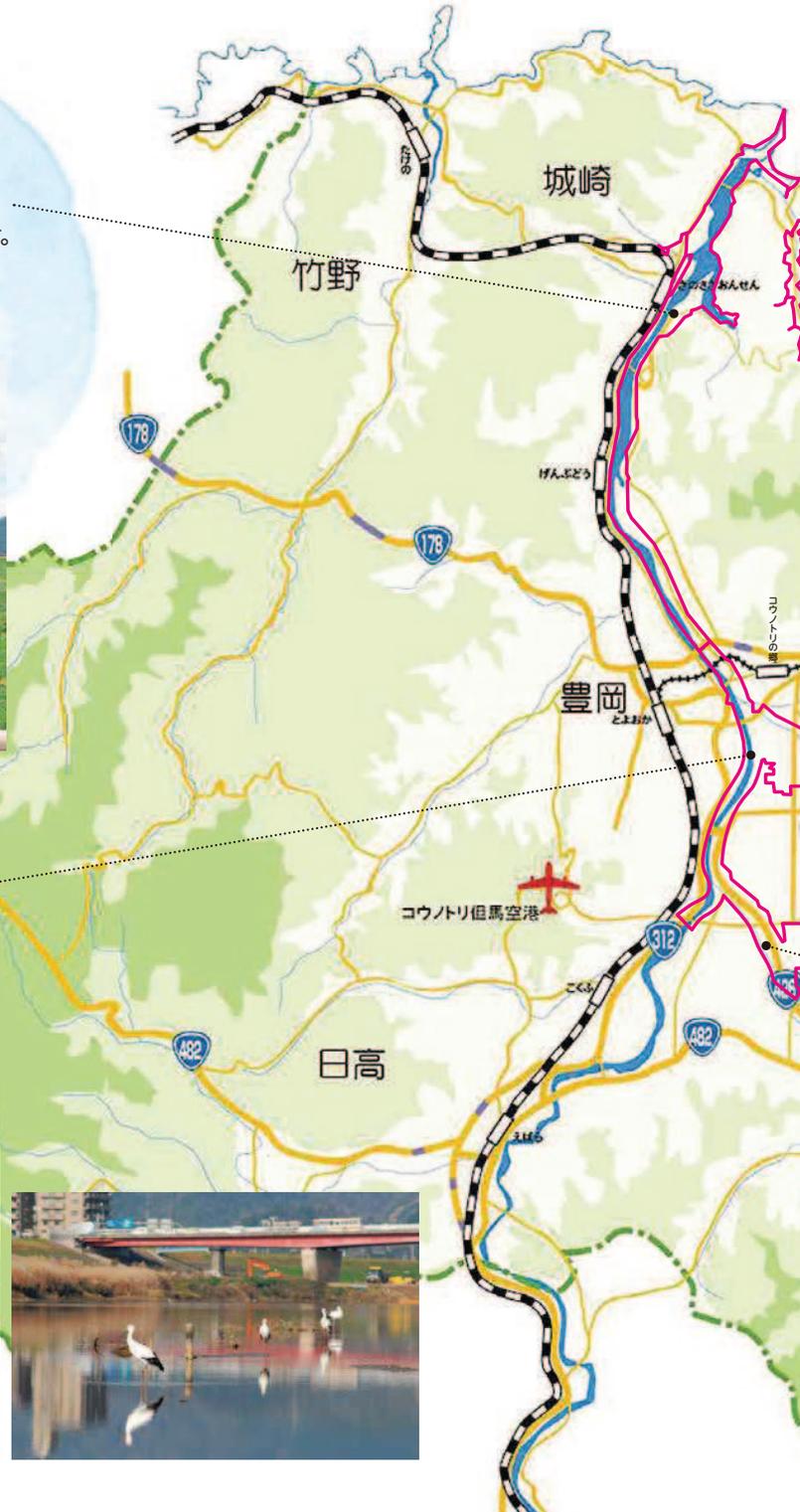
## としま ハチゴロウの戸島湿地

大陸からやってきた野生のコウノトリが舞い降りた水田を湿地として整備しました。河口付近に位置するこの湿地は、淡水域や汽水域など多様な湿地環境があるおかげで、多くの生きものを育てています。湿地内の人工巣塔では、2008年(平成20年)から連続してヒナが巣立っており、コウノトリの重要な生息拠点として機能しています。



## まるやまがわ 円山川

国土交通省が自然再生事業により、河川敷に浅瀬や湿地を整備するなど、生きものと人が共に暮らしていける水辺環境を考えた取組みが進んでいます。



## 豊岡自然再生 アクションプラン

豊岡で蓄積されたコウノトリの繁殖データなどの研究データを活用して、重点的に自然再生に取り組むエリアを選定しました。地域の生物多様性を豊かにするため、地域の自主的な自然再生活動を促し、実践活動に取り組んでいます。

## 小さな自然再生

たくさんの生きものが暮らす環境をつくるには、大規模な整備だけでなく、小さな活動の積み重ねが大切です。豊岡市では、地域に繁茂する外来植物の除去や、生きものすみかづくりなど、市民・地域・学校による「小さな自然再生」の取組みを支援しています。



## ラムサール条約湿地「円山川下流域・周辺水田」



「円山川・下流域・周辺水田」は、市民・団体・企業・行政などが関わりながら、失われた生態系の再生と、コウノトリと共に暮らすための活動が行われています。これらの活動が世界に認められ、平成24年（2012年）7月に国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録、平成30年（2018年）10月には登録エリアが拡張されました。

ラムサール条約登録エリア 

### たい 田結湿地

コウノトリの飛来をきっかけに、かつて水田だった場所で地区の住民が中心となって、湿地づくりが始まりました。この湿地には、住民だけでなく、研究者、企業、NPOなどの多様な主体が関わっています。

地元の女性らによって結成された「あん案ガールズ」は、保全活動に取り組むだけでなく、湿地を訪れる人に湿地や地域の暮らしや文化などの魅力を伝えています。



### かや 加陽湿地

市内を流れる出石川いずしの河川敷に広がっていた農地を、国土交通省が大規模な湿地として整備しました。出石川とつながる開放型湿地、水田のような閉鎖型湿地など、様々なタイプの湿地があります。

隣接する山際に、豊岡市は加陽水辺公園を開園し、湿地と森が一体となった環境教育や自然体験プログラムのフィールドとして活用されています。

### 水田ビオトープ

市内の各所には休耕田などを活用して水田ビオトープを設置し、地域住民らが管理しています。水田ビオトープを点在させることにより、水辺の生きものの生息場所を広げ、コウノトリの生息できる環境を増やそうとしています。



# コウノトリ育む農法

コウノトリ野生復帰で最も変わらなければいけなかったもの。  
それは、農業でした。

「コウノトリ育む農法」は農薬や化学肥料に頼らず、おいしいお米と多様な生きものを同時に育む農法です。コウノトリも住める豊かな文化・地域・環境づくりを目指し、2005年のコウノトリの野外放鳥を機に、本格的に作付けが始まりました。

一番の特徴は水管理。冬の間も田んぼに水を張る「冬みず田んぼ」や、田植えの1か月前から田んぼに水を張る「早期湛水」などを行うことで、ほぼ一年を通して田んぼに水があり、コウノトリのエサとなるたくさんの生きもののいのちを育てています。

## 「コウノトリ育む農法」の要件

- 農薬の不使用または75%減
- 化学肥料の栽培期間中不使用
- 中干し延期
- 深水管理
- 冬みず田んぼ
- 生きもの確認

## いのちあふれる田んぼ

「コウノトリ育む農法」の田んぼには、コウノトリはもちろん、カエルやトンボ、希少なメダカやゲンゴロウなど、さまざまな生きものが暮らせる自然環境が広がっています。

6月頃、田んぼの水を抜く時期（中干し）を遅らせることによって、オタマジャクシはカエルに変態し、ヤゴは羽化してトンボになります。カエルやトンボは、稲作にとって害虫と呼ばれるカメムシやバッタなどを食べるため、殺虫剤を使わなくてもお米作りができるようになりました。

そして、生きものでいっぱいになった田んぼには、コウノトリが舞い降ります。多様な生きものが絶妙なバランスでつながり合う田んぼ、それが「コウノトリ育む農法」の田んぼです。



シユレーゲルアオガエル



メダカ



オニグモ



シオカラトンボ



シマゲンゴロウ

## 生きものを増やす工夫

お米づくりをしながら様々な手段で「生きものを増やす工夫」が施されています。

### 水路と田んぼをつなぐ 水田魚道



温かくエサとなる小さな生きものが豊富にある田んぼは、フナやドジョウ、ナマズなどの淡水魚にとって、最適な産卵場所のひとつです。土地改良によって分断された田んぼと水路を、魚道によってつなぎ、産卵できるようにしています。

### 稲刈り後の田んぼに水を張る 冬みず田んぼ



稲刈りの終わった田んぼに水を張ると、微生物やイトミミズが増えて、稲作に適した土作りの手伝いをしてくれます。

また、アカガエルは産卵のために、渡り鳥は越冬のために、冬みず田んぼにやってきます。

# 次世代育成

自ら考え、発信し、行動できる。

そんな子どもたちが、コウノトリも共に暮らせる未来をつくっていきます。

## コウノトリ学習

学校で!

豊岡について学習・体験する「ふるさと学習」の一分野。小学3年生・5年生が生きもの調査などの体験や調べ学習で、コウノトリや豊岡の自然について学んでいます。



## 出張! 田んぼの学校

地域で!

地域に「生きもの先生」が出張し、生きもの調査や観察会を行います。大人と子どもと一緒に、身近な場所に暮らす生きものを知ることが、地域の自然の大切さを再発見するきっかけになっています。



## コウノトリKIDSクラブ

もっと深く!

「コウノトリや豊岡の自然についてもっと知りたい、学びたい!」そんな志をもった市内の小学4~6年生が集まり、生きもの調査や自然再生活動をしています。自ら考え、発信し、行動できる子どもたちを育てることを目指しています。



## 高校生等地域研究支援

高校生も!

高校生などが行うコウノトリや豊岡の自然に関連する研究、活動を支援。豊岡をよく知ることで愛着を持ち、将来にわたってつながりを持ち続けてくれる若者が増えることを目指しています。



### 豊岡市生きもの共生の日

2007年(平成19年)5月20日、日本の野外で43年ぶりにコウノトリのヒナが誕生した日です。いのちの大切さやいのちのつながりを実感する活動を広めるため、5月20日を「豊岡市生きもの共生の日」に制定しました。



## コウノトリに出会える施設



### コウノトリ文化館

住所/〒668-0814 豊岡市祥雲寺127  
TEL/0796-23-7750

HP/<http://kounotori.org/bunkakan/>

●休館日/月曜日(休日にあたるときはその翌日)、  
12月28日~1月4日

●開館時間 9:00~17:00 ●入館料/無料



### ハチゴロウの戸島湿地

住所/〒669-6103 豊岡市城崎町今津1362  
TEL/0796-20-8560

HP/<http://www.hachigorou.com/>

●休館日/火曜日(休日にあたるときはその翌日)、  
12月28日~1月4日

●開館時間 /9:00~17:00 ●入館料/無料



### 加陽水辺公園

住所/〒668-0841 豊岡市加陽582  
TEL/0796-21-9119

●休館日/火曜日(休日にあたるときはその翌日)、  
12月28日~1月4日

●開館時間/9:00~17:00 ●入館料/無料

# あなたもこの「物語」に参加しませんか



さまざまな人や分野に広がってきた コウノトリ野生復帰の「物語」  
これから先も「物語」は続いていきます

## コウノトリ基金への寄付・ふるさと納税

いただいた寄付金等は、コウノトリの生息地となる水田ビオトープや湿地等の整備や維持管理に関する経費、未来を担う子どもたちのための環境学習など、コウノトリが暮らせる環境の創出、コウノトリも住めるまちづくりのために活用しています。

### <寄付金を活用した主な取組み>

- 水田ビオトープの設置・維持管理
- 自然再生アクションプランの推進
- 自然再生活動の支援
- 環境学習や食育の支援 など



ふるさと納税  
についてはコチラ



## 社会貢献活動

コウノトリ野生復帰の取組みに共感する企業や学校などが、豊岡の子ども・大人・市民団体と一緒に湿地再生活動に取り組むなど、コウノトリ野生復帰の取組みを応援しています。



## 「食べる」貢献

コウノトリ育む農法の田んぼが増えれば、生きものを育む環境が広がります。この農法で作られたお米を食べることは、コウノトリ野生復帰を応援することにつながります。



発行 兵庫県豊岡市 (2020.3)

お問い合わせ 〒668-0045 兵庫県豊岡市中央町2-4 豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課  
TEL (0796)21-9017 FAX (0796)24-7801  
URL <https://www.city.toyooka.lg.jp/> E-mail [kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp](mailto:kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp)



ベジタブルインキを使用し、再生紙に水なし印刷をしています。